

土木学会コンクリート委員会
平成18年度 第2回規準関連小委員会 議事録(案)

1. 日時：平成18年7月20日(木) 14:00～17:00
2. 場所：スクワール麹町5階「寿」
3. 出席者(敬称略)：橋本親典委員長，下村匠担当幹事(代理田中泰司(記録))，伊藤康司，入矢桂史郎，岩波光保，栗田守朗，黒井登起雄，田中秀樹，椿龍哉，中村雅之，久田真(代理皆川浩)，三谷芳弘，森濱和正，横関康祐
4. 配布資料
 - 2-0 平成18年度第2回議事次第
 - 2-1 平成18年度第1回議事録(案)
 - 2-2-1 新旧対応表 規準編目次 セメント・骨材・混和材料 WG
 - 2-2-2 06年度第2回セメント・骨材・混和材料 WG 議事録(案)
 - 2-2-3 コンクリートの乾燥湿潤試験方法(案)
 - 2-2-4 土木学会規準 A、B、C、D 新旧対応表
 - 2-3 新旧対応表 規準編目次 鋼材・補強材 WG
 - 2-4-1 新旧対応表 規準編目次 フレッシュコンクリート WG
 - 2-4-2 新旧対応表 舗装用コンクリートの振動台式コンシステンシー試験方法ほか
 - 2-4-3 新旧対応表 プレパックドコンクリートの注入モルタルのブリージング率および膨張率試験方法ほか
 - 2-5-1 新旧対応表 表面被覆材のひび割れ追従性試験方法
 - 2-5-2 新旧対応表 表面被覆材の耐候性試験方法(案)
 - 2-6 コンダクションカロリメータに関する調査報告
5. 議事
 - (1)委員長挨拶および前回議事録の確認

橋本委員長から挨拶があった。また，前回議事録案の確認が行われ，若干の修正を条件に承認された。
 - (2)コンクリート常任委員会と示方書改訂小委員会からの報告
 - 1)EPMA，微量成分の英文版

EPMA，微量成分の英文版作成については，1次修正原稿の作成が完了していることが報告された。現在，最終原稿の作成をお願いしているとの報告がなされた。
 - 2)骨材の乾燥収縮試験法

骨材の収縮試験法の制定については，要請があれば活動を開始することとなった。
 - (3)各WGからの活動報告
 - 1)ホームページWG

今後年4回程度，ホームページの更新を行う方針であることが報告された。

2) 樹脂系接着剤 WG

活動報告なし。

3) 補修材料 WG

補修材料 WG は前回から部会を 1 回開催した。

4) 各規準編改訂 WG

セメント・骨材・混和材料 WG

土木学会規準・JIS 規格・関連規準の目次改定案(資料 2-2-1)が提示され、説明がなされた。審議の内容は以下のとおり。

[土木学会規準の変更について]

- ・これまで省略されていた高炉スラグ混合細骨材混合率試験方法は、使われている実績があるかどうかを調査し、再掲載するか否かについて検討を行うこととなった。
- ・流動化剤は JIS A 6204 が改正され、この中に記載されたので削除する。
- ・吹付け、水中不分離性混和剤は変更が大きいので改正(案)とする。
- ・フライアッシュ用 AE 剤品質規格(案) (JSCE-D 107) および置換率 (JSCE-D 503) は現行どおり<省略>することとなった。

[JIS 規格の変更について]

- ・ポルトランドセメントの化学分析方法に (2004 確認) を追加する。
- ・再生骨材 H(JIS A 5021-2005) の掲載が承認された。
- ・目次番号 C-5, 7, 9, 10 は今年度改定があったので改正に修正する。
- ・他の JIS 規格変更案は確認の上、承認された。

[関連規準の変更について]

- ・コンクリートの乾燥湿潤試験方法(案)(資料 2-2-3)について説明がなされた。骨材としての関連規準とするならば、コンクリートの配合が固定されていないと不都合ではないかという意見があった。これに対し、
 - ・当試験方法(案)は、従来はダムの配合で使用されている試験方法であり、普通コンクリートの配合との対応は検討が必要である。
 - ・現段階で掲載するのは時期尚早ではないか。などの意見があり、目次番号 C-新 2 . については WG で再検討するように要請された。
- ・水道法の更新日に関しては、最新のものを記載する。
- ・BS 破砕試験の転載については、橋本委員長から、土木学会に交渉を打診することとなった。転載費用等を含めた回答結果を橋本委員長から森濱委員に連絡することとなった。

鋼材・補強材 WG

鋼材・補強材関連の目次案(資料 2-3)が提示され、説明がなされた。審議・決定事項は以下のとおり。

- ・土木学会規準 (案) を外すことが承認された。

- ・土木学会規準 E - 16, 22, 23 は削除することとなった。
- ・JIS 規格の変更は確認のうえ，承認された。
- ・数字の丸め方の記載方法に関して確認がなされた。

フレッシュコンクリートWG

フレッシュコンクリート関連の目次案(資料 2-4-1)が提示され，説明がなされた。審議事項は以下のとおり。

- ・目次番号 F - 24, 26 について，HP 上では”2005”と記載されていたが，誤植であることが確認された。これに関してはウェブページの修正を依頼することとなった。
- ・1990 年代制定の試験法は，目次・本文の(案)を削除することが承認された。
- ・吹付けコンクリートの規準については，掲載が決定された。

修正箇所の説明(資料 2-4-2)があった。また，修正箇所の説明(資料 2-4-3)があった。

補修，注入材等 WG

補修，注入材等の修正項目が提示され，説明がなされた。

目次番号 K - 14 . については(案)をとるか否かを WG で検討することとなった。

5) コンダクションカロリメータについて

入矢委員からコンダクションカロリメータについての調査報告(資料 2-6)があった。来年度以降の方針について，セメント・骨材・混和材料WGで審議することとなった。

6) 次回までの作業および，改定作業の際の注意事項

[次回までの作業内容]

各WGで目次の修正版と，本文の新旧対応表を作成し，次回委員会にて提出するように要請された。

[改訂作業の際の注意事項]

JIS の変更に伴う，以下の注意事項について，各WGで確認する。

- ・文中に数値のまるめ方 (JISZ 8401) が参照されている場合には削除し，「有効数字桁として四捨五入する」のように変更する。
- ・文中の「参考」・「備考」は従来どおりに取り扱う。
- ・カタカナ表記に関しては，以前，土木学会論文集に掲載された規準関連小委員会の委員会報告に準じることとなり，橋本委員長からメールで通知されることとなった。
- ・JIS の試験器具の番号が変更になっているので，特に硬化コンクリートWGで確認する。
- ・軽微な修正を行った場合でも，見直しをしたという意味で，試験の名称の年号を 2007 に変更する。「軽微な修正」の中には，JIS 番号の修正も含む(今回は「数字のまるめ方」が主)。ただし，誤字・脱字，てにをは，などは除外する。

6 . 次回委員会

次回，平成 18 年度第 3 回規準関連小委員会委員会は平成 18 年 9 月 27 日(水)14:00 ~ 17:00，場所：土木学会にて開催予定

以上